

愛川町の取組



愛川町全体で推進する小中一貫教育の中で、同じ中学校区の小・中学校3校が共通の「めざす子ども像」を「自立し協働してたくましく生き抜く子」と掲げ、「学力向上」「交流連携」「児童・生徒支援」という共通の3つの視点をもって、「授業改善」や「教員交流指導」を推進しながら、学びの確かな継続のため取り組んでいる。各校では、「学習の中の言語活動を通して思考力・判断力・表現力などを育む」ための校内研究を推進しながら、相互の校内研究に参加し、参観・協議を行うとともに、小中合同研修会を設けることで、小中のつながりを大切にしながら授業の充実を図っている。

研究テーマ

「未来型授業(SDGs×STEAM×GIGA×PBL+インクルーシブ)」で未来社会を切り拓く力を育む

【研究の内容】

VUCAの世の中で生きていく子どもたちには次の6つのCの力（以下「6Cの力」という）が必要と考えた。〔Critical thinking（批判力）、Creative thinking（創造力）、Confidence（自信・信用）、Challenge spirit（挑戦）、Collaboration（協働力）、Communication（意思疎通力）〕

本校では、生活科及び総合的な学習の時間をおして「SDGs」の目標を学習課題に設定し、「STEAM」教育が成立する単元計画をカリキュラムマネジメントしてきた。また、「GIGA」スクール構想で整備されたICT機器をフル活用しながら、「PBL」の探究プロセスをスパイラルに繰り返し「未来型授業」を進めてきた。この未来型授業をおして未来社会を切り拓く「6Cの力」を育むことができるよう取り組んできた。さらに、今年度から今までも本校で取り組んできたインクルーシブの視点もテーマに盛り込み、主に東京学芸大学教育学部准教授大村龍太郎氏に指導助言をいただき研究を進めた。

【成果・課題】

「6Cの力」をどう身につけるか研究する中で、児童が学習を自分事として捉えられるかも大切だとご示唆いただいた。教科横断的な学習を進めながらつきたい力と主体的な学びの両立が課題だと考えた。



半原小学校

研究テーマ



【研究の内容】

- ・授業研究を基盤とした授業改善
- ・校内研だよりの発行
- ・教員相互の授業を見合うことでの授業改善の推進

【成果】

年度の初めに「指導と評価の一体化」を目指した学習指導と学習評価の在り方についての研修会を開催し、各単元（題材）での評価場面や評価材料、総括の仕方等の共通理解を図った。教科の垣根を超えて指導案検討や授業を見合い、指導と評価の在り方について確認できた。また、今年度は横浜国立大学附属横浜中学校の先生方を交えた研究協議を実施することで、授業力向上に資する課題を明確にし、研究を進めることができた。

愛川中学校

「つなぐ・つながる」

1. 生徒の知識がつながる授業
2. 授業の中で生徒同士がつながっていく授業
3. 授業と評価をつなげていく授業
4. 授業と家庭学習をつなげる授業
5. 学年・校種・教科間をつなげていく授業

研究テーマ

田代小学校

「表現する力を育てる授業づくり」

全教科・全領域にて、児童の表現力を育てるための取り組みを行った。

【研究の内容】

- ・児童インタビュー ・校内研便りの発行
- ・児童に身につけさせたい表現力について協議を行った。
- ・各教科における表現について学習指導要領をもとに共通理解を図った。
- ・全ての学級（すべての学年が単級）で授業を公開し、全職員で全児童を見取りながら研究に取り組んだ。

【成果】

校内研究会では、昨年度に引き続き白梅学園大学子ども学部之三藤敏樹先生のご指導・ご助言のもと、各学年の実態に応じて、表現する力を育てる授業を考え、実践してきた。その中で、本年度からの取り組みである児童インタビューを行ったことで、児童の意見を授業に取り入れやすくなり、研究を深めることができた。

